

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20029

建築物名称	(仮称)MEFULL川崎新築工事
建築主	野村不動産株式会社 都市開発第二事業本部 開発部長 佐々木 幹
建築物の所在地	川崎市川崎区駅前本町10番1他
設計者氏名、建築士事務所名	大野 芳俊 東急建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,947.76㎡
用途	飲食店舗・事務所・自動車車庫・自転車駐車場
構造	CFT造 一部 RC造・SRC造
階数	地上12階、地下1階
工事完了年月	令和4年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、空気熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		2029
建物名称	(仮称)MEFULL川崎新築工事	階数	地下1F、地上12F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市川崎区駅前本町10番1他	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年8月 竣工	評価の実施日	2022年7月27日	
敷地面積	395 m ²	作成者	橋本 武	
建築面積	337 m ²	確認日	2022年7月27日	
延床面積	3,948 m ²	確認者	橋本 武	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G vs 環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・材料: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境: 3.0, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 2.2, 空気質環境: 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性: 2.5, 耐用性・信頼性: 3.0, 対応性・更新性: 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

生物環境: 1.0, まちなみ・景観: 2.0, 地域性・アメニティ: 3.0

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

建物外皮の熱負荷: 5.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 2.0, 効率的運用: 3.0

LR2 資源・材料

LR2のスコア = 2.7

水資源保護: 3.0, 非再生材料の使用削減: 2.5, 汚染物質回避: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮: 3.0, 地域環境への配慮: 2.5, 周辺環境への配慮: 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.6/4.3	1.8
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		0.4/0.7	2.5
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.56		
2 自然エネルギーの利用		2.9/5.0	2.9
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.5/4.7	2.7
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.56		
2 自然エネルギーの利用		2.9/5.0	2.9
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.56		
2 自然エネルギーの利用		2.9/5.0	2.9
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.0	
1 機能性						2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1	広さ・収納性					3.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応					1.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画					3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観					3.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース					2.0	0.33	-	-	
3	内装計画					1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				評価する取り組みが6つ	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり						4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				基準階:3.75m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ				比率:0.279	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				積載荷重4900N/m ²	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出				G	W					1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						2.0
3 地域性・アメニティへの配慮										3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					3.0

